

つむぐ会だより

令和5年度第5回介護と医療をつむぐ会
令和6年3月1日(金)
開催報告

No.26 令和6年6月発行 ●発行/流山市 ●編集/介護支援課

「在宅療養高齢者の救急要請から病院受け入れ
の実際～急変時における医療・介護・消防
の円滑な連携とは～」

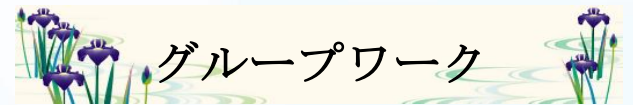
令和6年3月1日(金)流山エルズにて、上記を
テーマに、流山市内の医療・介護の専門職を対象に
研修会を開催し56名の参加がありました。

消防との質疑応答

消防(救急)に流山市の高齢者の救急搬送の現状、救急の問題課題についてお話をいただき、その後質疑応答を行いました。

主な質問として、利用者情報がない場合どのようにすればいいか。救急車に同乗できない場合どうすればいいかという質問が出ましたが、救急隊からは、「分からなければわからない、できないことはできないと伝えてくれれば、その情報を病院に伝え受け入れ先を探す」との回答がありました。

アンケートからは救急隊の話聞くことができ、日頃悩んでいたことが少し解消された気がする。救急隊の業務、置かれている状況が理解できた。救急搬送についてほとんど無知であったので、現在の状況を知れたのはよかった。様々な状況がありスムーズな搬送につながらない場合や、本人の状況を共有できていないなど多くの問題があるが、何とか簡単にできないものかとの意見が出ました。

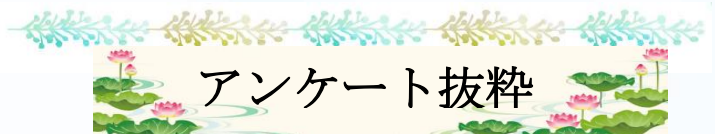


グループワーク

必要情報の伝達、他職種との職域理解を目的とし、救急隊到着から病院への受け渡しまでのロールプレイングを行いました。

設定は、一人暮らしの80歳男性、流山和夫さんが、いつもと様子が違うことを、訪問介護員が発見し、救急要請し救急隊が到着したところから始まります。まず、救急隊、病院関係者、地域包括支援センター長が設定に沿って演じる場面を見てもらい、その後グループで演じてもらいました。

アンケートからは、救急隊に演じてもらったことで、臨場感があり患者への声のかけ方、状態観察、訪問介護員への情報の取り方など、他職種の立場になることで、相手が求めていることを理解できた。ロールプレイを通し、実際の急変の場に立ち会ったらどのような情報を伝えることが大事なのか学んだ。介護支援専門員の負担が大きいことが理解できた。グループ討議の中で救急情報カードやお薬手帳の活用についての情報を得ることができた。平時から準備できることをグループで考えることができた。との意見がありました。



アンケート抜粋

- ・「介護と医療をつむぐ会」のタイトル通りであったと思う
- ・お互いの立場を理解できる場でありよかった
- ・課題抽出の機会となった。できそうなこと、長期的な課題と整理できたのがよかった
- ・今回抽出された課題についてさらに、関係者職種を招いて意見交換できるといい
- ・所属団体に研修したい

次回のつむぐ会は、
7月12日(金)18時45分から20時45分
中央公民館 第2会議室にて

テーマ「神経難病患者の薬物治療について
—薬剤師の視点から—」

介護保険の特定疾病の半分が指定難病です。今後、多様な課題に対応できることが求められています。神経難病について学ぶとともに、関わり方、他職種との連携について考えます。是非、この機会を御活用ください。

